

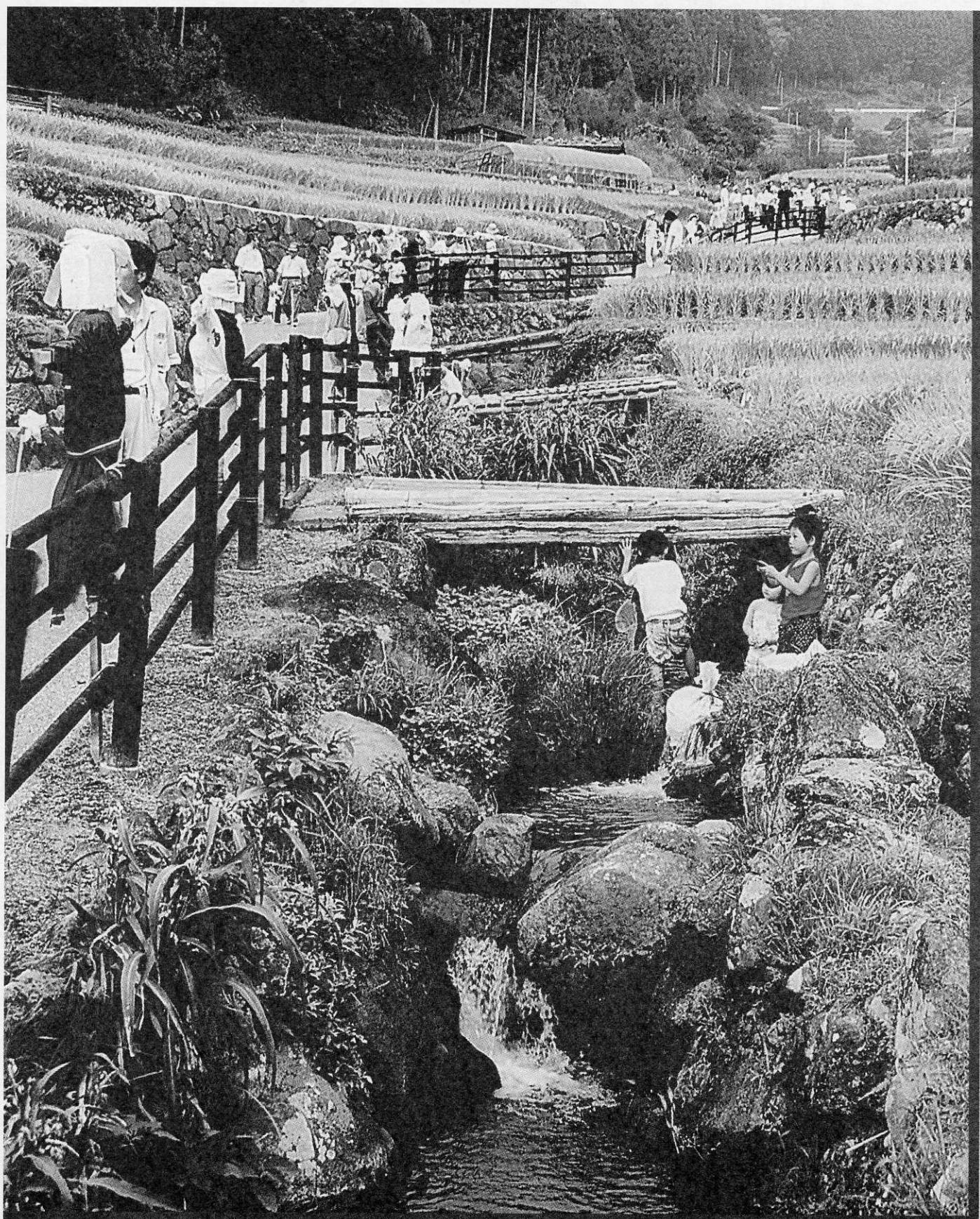


棚田ライターブ

全国棚田(千枚田)連絡協議会

第39号 2005.11.10
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきゃらネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078
<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>



第11回全国棚田(千枚田)サミット 四谷の千枚田見学にて。地元の小学生が魚取りを実演してみせてくれた。

2日間で1000人余の人が集まりました

愛知県新城市鳳来総合支所経済課農業振興係

全国棚田（千枚田）サミットが、9月2日（金）、3日（土）の2日間にわたり、「緑と水と心のオアシス」をテーマに、棚田の保全に取り組む団体・個人が一堂に会し、生産の場としての水田に留まらず、環境保全や文化・歴史遺産としての棚田保全の意義や必要性、また、棚田が

棚田の石垣が築かれた石積みの方法を紹介しようと、50cm四方の大きな石を木の棒で動かして見せました。また、見学会コースの中に、地域住民と参加者の交流の場として、3箇所の接待場所も設けられ、きゅうりやトマト、つきたてのお餅なども貰つてしまつた。

なども振る舞われました。
全体交流会では、飲食店組合、「農村
輝きネット・鳳来」のみなさんより、手

解と合意を得ながら、中山間地域のさらなる維持活性化につなげようと、鳳来中学校体育館や四谷の千枚田を中心に開催されました。

当曰は、北は北海道、南は鹿児島まで
全国35都道府県から2日間延べ1000人
余の人々が、集まりました。

1日目の9月2日は、鳳来中学校体育館で開会式が行われ、全国棚田（千枚田）連絡協議会長の佐賀県唐津市長坂井俊之氏のあいさつの後、サミット実行委員会長の鳳来町長があいさつを行い、愛知県知事の代理の農林水産部長をはじめとする来賓の方々から、ごあいさつをいたしました。

その後、棚田学会長で、静岡文化芸術大学長の木村尚三郎先生の基調講演では、四谷の千枚田の石垣の美しさ、景観を評価され、都市での生活に疲れ、自然に癒されたいと、オアシスを求める人が増えていることを強調されました。

全国棚田 サミット される!!

鳳来町

2日(金)・3日(土)

のオアシス



木村尚三郎さんの基調講演では、「昔から日本人は『山と緑と水』を眺めて心安らかになるという文化があり、そのすべてが調和しているのが『棚田』」。『棚田』は日本人の美しい『宝』であり、何物にも代え難い『いのち』』と力説。そして、「現代のように先行きが不透明な時代は、人は旅をし、歩き回る。WTOは、現在7億人の世界の旅行者が、2020年には16億人にのぼるとしている。農村も棚田も例外ではない」と、棚田保全の一つの方針を示唆した。

に心を込めて提供していただいた鳳来の
味を参加者一同堪能してござきました。

れ
ま
し
た

三
ま
し
た

午後の事例発表では、連谷小学校全児童14名が、「私たちの千枚田」と題し、総合的な学習の時間「くうかけタイム」で取り組んだ千枚田で学んだことや稻作体験を劇にまじえて発表しました。

午後の事例発表では、連谷小学校全児童14名が、「私たちの千枚田」と題し、総合的な学習の時間「くうかけタイム」で取り組んだ千枚田で学んだことや稻作体験を劇にまじえて発表しました。

続して行われた 分科会の発表・まとめでは、「棚田を守る住民組織が自治であり、手作りの未来を考える新しい自治のあり方が棚田にはあります。自然とのかかわりでは、針葉樹の山の水源が間伐も出来ない状態で保水力低下と山崩れなどの災害の危機が増して、棚田の保全が森林の保護にもつながります。棚田が持つ心の癒し、オアシスが、都市と中山間地の接点になり、過疎と高齢化に悩む地域の再生にも役立ちます」など、棚田保全と地域活性化や自治のあり方などに議論が及びました。

続して行われた 分科会の発表・まとめでは、「棚田を守る住民組織が自治であり、手作りの未来を考える新しい自治のあり方が棚田にはあります。自然とのかかわりでは、針葉樹の山の水源が間伐も出来ない状態で保水力低下と山崩れなどの災害の危機が増して、棚田の保全が森林の保護にもつながります。棚田が持つ心の癒し、オアシスが、都市と中山間地の接点になり、過疎と高齢化に悩む地域の再生にも役立ちます」など、棚田保全と地域活性化や自治のあり方などに議論が及びました。

続いて、共同宣言では、実行委員会委員で、鞍掛山麓千枚田保存会会長の高橋庄一氏が「棚田や山林が持つ水源のかん養、良好な景観形成などの多面的な機能を増幅させ、人々の心に潤いと安らぎを与える才アシスになるよう、緑と水を守り地球環境にやさしい農村社会を維持します」など5項目の内容を宣言しました。最後に、閉会式を行い、次期開催地の宮崎県日南市の助役渡邊靖之氏のあいさつの後、鳳来町長から閉会及び2日間のお礼のあいさつを行い終了しました。

*鳳来町は10月1日、新城市となりました。

千枚田見学はいかがでしたか?

愛知県新城市伯鳳来町
鞍掛山麓千枚田保存会理事

小山 翁一

9月2~3日、第11回全国棚田（千枚田）

サミットが我が鳳来町・四谷の千枚

田で開催されました。

これまでのサミットは、棚田での現地交流がややもすると疎外された感がありました。そこで、今回開催されたサミットを契機に、棚田を主役にした新たな形のサミットを開き、訪れた棚田関係者に「喜んでもらう」、「印象に残る」など、今後のサミットへの方向付け、発展への期待を抱つた内容を地域が一丸となつて検討し、実践させて頂きました。

現地対応では、〔千枚田売店の会〕を中心に地元の女性陣が各所で湯茶の接待を行い、手作りの漬物や冷やしたトマトなど素朴な味を提供、暑い最大変喜ばれました。〔田吾作〕は有機・減農薬で栽培した「つきたての餅」を振る舞うなど、感謝の良い「ミニユーチューション」が図られました。〔保存会、地元住民〕は要所々々で千枚田の歴史、環境などの概要説明に汗を流しました。〔お助け隊〕は、若い衆で結成されたグループで、景観道に1000本の「かざぐるま」を飾り、訪れた方達に心地良い雰囲気を醸しだし、途中には「代掻き」、「田植え」、「稻刈り」などのパフォーマンスを行いました。〔老人会〕は、山懐に祀られている「十王堂伝説」を語り、また、九六鉢サによる昔



千枚田見学では、代掻きの実演も地元のみなさんで行われた



田植えの実践も行われた

特集

第11回 (千枚田)

開 催

愛 知 県

2005年9月

テーマ:
緑と水と心

地元協力のサミット!!

佐賀県西有田町
岳信太郎棚田会 代表 池田 勝幸

今年も、会員4名で参加させてもらいました。旅路は、JR（新幹線と在来線）の利用で移動してきました。

鳳来町のイメージは、工業都市で山手の一部に少しだけ棚田が広がっていると思つていきましたが、われわれと同様に、豊橋駅からは一変して心が落ち着いた景色（心の田舎）で安心しました。

到着と同時に、中学校体育館での基調講演は、棚田学会の会長で木村尚三郎先生の話を聞きましたが、われわれの西有田町のサミットでも、講演をして頂いたので、改めて感動、感銘したものでした。

その後の棚田見学では、どこでもあるような、山間地での農業の厳しさを味わえるような環境の中での地元協力で開催している様子を感じられました。

特に地区全体が災害で、崩落からの復興でこのような棚田の景観を保つことが出来るのは、米に対しての思いがすごかつたのではないかだらうかと感じ取れました。

田んぼは一枚ずつ石積みの棚田で、地形にあつたもので、川も大きくなり、田んぼの中を農作業用として整備された道は、現代社会では必要不可欠のものと感じられました。

こうした中で、地元の子供たちも一生懸命に棚田に対しての思いや、これから事を考える時間が出来たことは、サミットが持つ使命として、各地で開催され、地域と連携した活動が今後も起きていくことを期待しています。

科会 ①「小さな自治」と棚田

コードイネーター 東京大学大学院助教授 小田切徳美氏

栃木県茂木町農林課 伊藤 崇

分科会
②
緑（棚田と森を考える）
コーディネーター・愛知大学文学部教授 藤田

社団法人
富山県農林水産公社
設計管理課

田中
好美

第1分科会では、話題提供者として、宮崎県日南市、山口県周南農林事務所、地元鳳来町から3名が参加され、棚田地域における自治組織の在り方について意見交換をしました。どの地域も、「自分の出身地を堂々と言える地域づくり」を目指して活動しており、自分たちの将来を自分たちで、手づくりでつくる「小さな自治」を実践しています。

その自治とは、自治会とは違う、集落を越えた新しい自治組織をつくりあげることだ」と言います。確かに、中山間地域のような耕作条件が悪い地域では、個人で棚田を守っていくには自ずと限界があります。そのため、集落ぐるみで棚田を守っていく組織作り=集落営農が必要になってしまいますし、現在、茂木町でも集落営農を推進しています。本町では、その組織づくりのために、中山間地域等直接支払制度交付金を活用していくかと思います。



分科会は、各会場でそれぞれ盛り上がった。

件の悪さに加えて、耕作者の高齢化などの理由で次第に耕作放棄地化しています。棚田は、おいしい米を生産するだけではなく、水源のかん養、洪水の防止、土砂崩壊の防止、動植物の生息地など、様々な多面的機能がありますが、耕作放棄地が増加すると、その機能が低下してしまいます。棚田が持つ多面的機能は、平地に住む都市住民の暮らしにも直結しております。その機能が低下すると多くの損害をもたらします。それを防ぐためにも、動植物の保護活動や景観作物の植栽、棚田オーナー制やビオトープ活動を通じた都市住民との交流などの取り組みが望されます。本町では、直接支払制度を始め様々な事業を活用して、中山間地域における活動を支援していますが、まだまだ十分ではありません。棚田は地域の誇り、シンボルです。その棚田を守るために、平地と中山間地域の条件の違いを理解し、もう思い切った支援策を国が講じることを強く望みます。

『棚田と森林の関係はとても深い。棚田に必要な水の供給や肥料をとるために水田1に対して森林3が必要であり、森との関係は切り離せない。今、日本の水田の2割が耕作放棄地であるが、千年以上続いた水田が、たった30年で元の姿に戻ってしまう。棚田や森をそのまま放置することこそ自然破壊である』と、日本の集落の歴史と現状について、話題提供者からお話をされました。

さびれている集落をたまに目にしますが、具体的に数字で表されると愕然としてしまいました。この分科会に参加するまでは、棚田と森林は相反するもので、森林を無くせば日照もよくなり、より棚田が保全できるのではないかと、安易に思っていましたが、森も併せて手入れしていくましたが、森も併せて手入れしていくと、棚田や集落の保全につながるのだと考えを改めさせられました。

昨年、富山県では熊が異常出没しました。熊による年間の人身被害は16件24人で、全国でトップでした。人家に近い里

ることで、熊と人との緩衝地帯がなくなり、遭遇しやすくなつていたために起つたことでした。

仕事で棚田の写真撮影に同行することもありますが、棚田のすぐそばまで森がせまり、暗くて陰気な雰囲気があり、今にも熊が出てきそうで、ビクビクしながら鈴を鳴らしていた記憶があります。

人が手を加え、里山を再整備して見通しのよい森にすることは、棚田にとってはもちろんのこと、人間や森に暮らす動物にとっても、とても大切なことだと思いました。

澄んだ空気の中、木立のあいだから陽が差し込む森を散歩しながら、視界が開けると段々と連なる棚田の美しい光景。棚田地域に暮らす人々と都市住民が、交流しながら家族のように笑いあえたうらぎなことです。

今回の棚田サミットは、棚田の持つ問題点、役割、価値を再認識する機会となり、今後の活動につなげていきたいと思います。

棚田の見えなくなつた「水」
棚田と水を考える
コーディネーター 東京農工大学大学院教授 ③

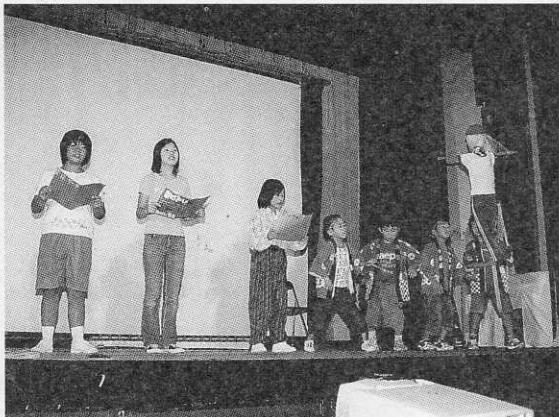
（）
コーディネーター 東京農工大学大学院教授

千賀裕太郎氏

山本 早苗
(関西学院大学大学院)

今回初めて棚田サミットに参加して、趣向の凝らされた演出と心のこもったものなしを受けて、とても有意義な時間を過ごすことができました。2日目の第3

分科会は、100人ほどが集まり満席状態となり、話題提供者のユーモアあふれる報告と参加者の熱気で、大変盛り上がりました。



地元の小学校、連谷小学校の事例発表



交流会では、宮崎県日南市からも芸能交流

分科会(4)
コーディネーター・早稲田大学名誉教授 中島 峰広氏
心のオアシス、百姓のつどい、
棚原の棚田村事務局 花岡 良昭

携帯電話のベルが鳴る。徳島メンバー5人で棚田サミットに向かう車中の澤田さんの携帯電話へ、徳島県職員の村上さんからの電話である。夜の交流会に上勝樺原関係者がないのを心配しての連絡であるが、電話の向こうはかなり盛況のようである。仕事の都合で、棚田サミットに参加できず、夜中12時前に豊橋駅前のホテル到着、次の朝、第4分科会に入る。

第4分科会では、今回新たな試みとして、全国各地の棚田での取り組みをひとりでも多く、地元の方々の口から直接、話を聞くことができるといった進行がなされた。コーディネーターの中島先生からの、一人5分程度との依頼にもかかわらず、各地の熱の入った話が語られ、予定より大幅に時間が超過し、質疑応答の時間も短縮となつた。

そのなかでも、ハツチヨウトンボが帰

れる環境を整え、無理に連れてくるのではなく、自然に帰つてくるのを待つ、といつた試みあるいは提案は特に印象に残っている。こういった地道な活動と、その根底にある自然や環境や生き物等に対する慈しみや畏敬の念が、今、「自然の一部である人」の行為として、一番求められることではないかと思う。

そして、今回のような活動報告は、是非次回も聞いてみたいと思う。実活動に基づいた人の言葉は、深く重い。そういつた言葉を自分たちの実活動と重ね合わせることで、それぞれの活動が、より良い活動へと展開していくのではないかと思う。

最後に、今回の棚田サミットスタッフの皆様に感謝申し上げ、来年の宮崎で、また新たな出会いや、多くの人と再会できることを楽しみにしております。

ありがとうの気持ちでいっぱい 松田 弘子(熊本県ふるさと水と土指導員)

私は、「熊本県ふるさと水と土指導員」をしていますが農業の経験がありません。農業をしていなくても、私の出来ることで指導員を続けております。

今回はチャンスをいただき棚田サミットに参加しました。田植えの経験もない

つけられました。繰り返し強調された災害の経験と記憶は、棚田が単なる一片の土地として存在しているのではなく、その土地土地の履歴を刻み込んでいること、そして水田に執着する人びとの誇りとともに存在してきたことを教えてくれます。

ただし、戦後の食糧増産で拡大してきた棚田地域も少くないですから、棚田を現代においても敢えて水田化し続ける意味は何だろうか、と考えさせられます。棚田を「復田」する過程で、物理的にも認識的にも遠く見えなくなつていて水の流れが少しずつ意識されるようになりました。「水の道」から棚田の意味を問い合わせると、防災の知恵と工夫が見えてきます。「水の道」から棚田の意味を聞いて、自然の限界に挑み続ける人びとの生き様が浮き彫りにされます。見えなくなつてある「水の道」を、現代社会においてどのように紡ぎ直すことができるのか、その土地土地の履歴を重ね合わせながら世代を超えて棚田の意味をどのように語り継いでいくのか。これらの問いを自分の住んでいる場に持ち帰つて考え続けたいと感じさせてくれる貴重な分科会でした。

のです。

棚田について、維持する。この維持することの意味、大切さを理解し、地域

ぐるみで取り組んでいくことの大変な様子がよくわかりました。

今回は交流会に参加するために、名刺ではなくて、手づくりでビーズのブローチを用意しました。ところが交流会の前に棚田の見学がありました。バスに乗り山の上まで登り、景色の良いところで説明をしていただきました。素晴らしい景色を後にして、ここからは歩いて行つていただきますと言われ、皆、不安そうな顔、足の悪い人、肥っている人は、ワード、タバコも吸えないなーと、口ぐぢから出る声、そこでガムがありますよ!!と手渡して、健康的ですね!と言つて歩き出しました。

最初の休憩で「梅干とお茶」の接待です、梅の塩分、大きさ、色合いと申し分なくおいしくいただきました。これから歩いて行つても「疲れなどは受け付けないよ」と言つてくださいました。これから棚田のいろはから学ぶことが出来、足元には「かざぐるま」空には、高々と「たこ」があげられ、石垣には、石積の方法など見学、今度は「キュウリの浅漬けとトマト」をいただき、口にしたとき町ぐるみでこんな私たちのためにと、胸が熱くなりました。

この喜びを表現するには、言葉だけではなく交流会で使つつもりでしたが、地域の方々に感謝しないでどうするの!!と思つて、手づくりブローチを置いてきました。次は、「梅ジュースと梅酒」次から次へともてなしにビックリです。沢遊び、沢ガ二、魚つり、小学生も参加です。棚田についての発表です。稲刈りも見せて

いただきました。最後と思っていたら、こちらですとの案内、「つきたてのおもちとバーベキュー」でした。

インシシの肉が焼かれていました、初めて食べておいしかったのですが、インシシが多いのだよと言つてのことですね、この対策も考えなければ。

これらの接待は、1年も2年・数ヶ月も前から準備しなければ素晴らしい接待など出来るはずがないと思い、ありがとうの気持ちでいっぱいです。誰でも満足されたことと思います。

このあとに、議員さんと隣席になり、議員の仕事、町をどうしたら良いのかなど、など聞くことが出来て、私自身、この素晴らしい町を活かさなければと思いました。感動は満点で交流会に参加しました。

棚田の見学で受けた接待でおわかり下さい」と言つてくださいました。これから歩いて行つても「疲れなどは受け付けないよ」と言つてくださいました。これから棚田のいろはから学ぶことが出来、足元には「かざぐるま」空には、高々と「たこ」があげられ、石垣には、石積の方法など見学、今度は「キュウリの浅漬けとトマト」をいただき、口にしたとき町ぐるみでこんな私たちのためにと、胸が熱くなりました。

この喜びを表現するには、言葉だけではなく交流会で使つつもりでしたが、地域の方々に感謝しないでどうするの!!と思つて、手づくりブローチを置いてきました。次は、「梅ジュースと梅酒」次から次へともてなしにビックリです。沢遊び、沢ガ二、魚つり、小学生も参加です。棚田についての発表です。稲刈りも見せて

2006年は宮崎県日南市で開催!

第12回全国棚田(千枚田)サミット

愛知県鳳来町で開催された第11回全国

アクセスすると災害状況写真を添付して

います)。

棚田「千枚田」サミットでは、鳳来町の

ただ、坂元棚田へは別の市道があるため、アクセス寸断は免れ、若干の不自由

誠にありがとうございました。また、全皆様の胸を借りながらPRをさせて頂き

國から参加された皆さんから「来年は日本市に行きますよ」と逆に温かいサミッ

など出来るはずがないと思い、ありがとうの気持ちでいっぱいです。誰でも満足

ト開催歓迎の声援を頂き、黄金色のハツ

されたことと 같습니다。

このあとに、議員さんと隣席になり、議員の仕事、町をどうしたら良いのかな

ど、など聞くことが出来て、私自身、この素晴らしい町を活かさなければと思

いました。感動は満点で交流会に参加しま

した。

身に背負い9月4日宮崎への帰路に着きました。

南市のPR隊は、「全国の皆さん期待」を一

身に背負い9月4日宮崎への帰路に着きました。

と、ここまで、歴代サミット開催地の皆

さんが経験してこられたことでした。違うのはここからです。

棚田の見学で受けた接待でおわかりだ

と思いますが、会場の中は、テーブルの上には、所せましとサンドイッチ、フル

ーツの盛合せ、鉢盛と並べてあり、後方、横には、屋台です。

焼きそば、お寿司、そば、豚汁、

焼とり、焼魚、焼肉、吾平もち、生野菜、

サラダフルーツと愛情の固まりでした。

もう食べることが出来ないとつとこまで食べました。

アトラクションのあれこれ、文化財産

がおり伝統文化があり、保存会、お助け隊、直売所、地域の活動状況が良く見えました。念仏踊り会場内の飛び入りで参加し

た。幸いに日南市では人命被害はなかつたものの、市へのアクセス道はほとんど一時寸断され、復旧に相当な時間を要す

ることとなりました。坂元棚田へ通じる

市道坂元線も例外ではなく、約30mにて盛り上がりました。楽しい一刻でした。

たり崩落し寸断されてしましました(日

最後には、花火でした、久しぶりに目

の前で見ることができました。

連「酒谷グリーンツーリズム協議会」に

南市のホームページのリンクから観光関係 安部裕二)



第12回サミット成功

に向け、引き継いだばかりですが、おそらく1年はアツという間にやつてくるだろうと思います。日南市開催も「意義深く大変良かった」と参加者の皆さんを感じて頂くよう全市民挙げて準備を進めて参りました。大変嬉しいと思いますので、全国各地からのたくさんのお越しをお待ちしております。

(宮崎県日南市役所 農政課 農政企画

新しく自治体正会員力が増えました

鹿児島県八重の棚田

鹿児島市は、桜島や錦江湾に代表される自然と歴史にあふれ、鹿児島県の県都として発展を続けています。昨年の11月に周辺5町と合併し、人口60万の新鹿児島市として新たにスタートしましたが、その合併した周辺5町の一つである旧郡山町の中に八重の棚田があります。

鹿児島市の北部、標高676mの八重山から鹿児島市街地へ流れ出す甲突川の源流域に位置する八重の棚田は、約240枚の棚田が広がり、

近くには甲突川の源流となる甲突池や八重山公園もあり、眼下には桜島や鹿児島市街地を一望することができます。この八重の棚田で、平成14年から地元の八重地区棚田保全委員会の主催による「農業体験イン八重の棚田」が行われています。6月の田植えから7月の田の草取り、10月の稻刈りまでを行う「田植え体験」と9月のそば植えから11月のそば刈りまでを行なう「そば打ち体験」があり、12月には収穫祭が行われます。収穫祭では、自分達で作ったお米をおにぎりにしたり、餅をついたりして食べます。また、そば打ちも行って、できたりのおそばとおにぎりに舌鼓をうつことができ、参加された方々からとても喜ばれています。

最近は子供さんだけでなく、親世代の方々も農業の体験の無い方々も多いため、親子で農作業初体験といふ方も多く、地元の八重地区棚田保全委員会の皆さんのお手取り足取りの指導で、楽しく農作業の体験ができます。また、農業体験に参加される方々だけでなく、貴重なシャッターチャンスを逃すまいと写真愛好家の方々も多く来られ、山あいの小さな集落が明るい笑い声と活気にいつづれます。

会員のみなさんへ お知らせ

個人会員活動費補助金が、2004年度から棚田保全活動への助成として使われています。

個人会員世話人の高野光世さんより、以下のようなお知らせが届きました。「個人会員活動費補助」が、個人会員がかかわりを持つ棚田保全活動への助成として、使われはじめたとのこと。今後、助成を受けた活動の報告を掲載していく予定です。また、2005年度以降も募集中とのことで、関心のある個人会員の方は、世話人の高野さんにぜひ、連絡を。

1. 每年の棚田協議会の予算の中に「個人会員活動費補助」という項目があり、だいたい年度末にお金が（個人会員世話人の高野宛に）振り込まれてきます。この使途について皆さんにご相談し、2004年度から以下のようにしました。

◇個人会員がかかわりを持つ各地の棚田保全活動の中から、良質な活動を応援する

◇助成の条件としては、

- A.直接間接を問わないが、棚田を保全するための活動であること
 - B.個人会員が主体的にかかわっていること
 - C.外部に向かって開かれていること（個人的な活動は対象外）
- ◇原則として1件につき5万円。予算の範囲内で年間2~3件に助成を実施する
- ◇選考は個人会員世話人が行う
- ◇助成を受けた人（グループ）はライステラスに活動報告を投稿する

2. 今年の春から7月半ばにかけて2004年度分を実施しました。助成を受けたグループは以下の4件でした。

◇樺原の棚田村（徳島県上勝町）

◇坂折棚田保存会（岐阜県恵那市）

◇伊根と新井の千枚田を愛する会（大阪府守口市）

◇棚田の楽校（新潟県新潟市）

樺原の棚田村の様子は、ライステラス37号のトピックスにて、すでに紹介していますので、次号以降「坂折棚田保存会」「伊根と新井の千枚田を愛する会」「棚田の楽校」の報告を掲載していきます。お楽しみに。

お便りテラス

「サミットの課題と展望」

1. サミットのあり方→誰が、何について話し合い、何を決めるのか？

2. 開催地→H19年度が未定。年内には決定してほしい（お金がかかるので開催地に手をあげない？）。

3. 会員の拡大・総会でいろいろな方が意見発表。本協議会の存在を知らない人が多い？ P.R.したい。

4. サミットに参加される方は、いろいろな方。私は単に聞くだけではなく、意欲的に発言、発表できるサミットを望みます。

5. サミットのメインは、何といつても分科会。本年度は、テーマがわかりやすく、大変良かった。ただし、私の考えとはズレがありました。以下に記します。

A・会場→全体会の会場のため、広

第11回サミットで 良かったこと

1. 棚田見学

高い所から低い所へ歩きながら、見学しました。遊歩道では、いろいろな催し物があり、感心しました。

2. 事例発表

吾作・お助け隊、売店の会などの代表者に実践例を発表してもらい、しっかりと題提供、その後、質疑討論にしてほしかった。

3. 事例発表

小規模校の少人数で、各学年らしい発表ばかりに涙した私でした。方言もあり、今までになくすばらしかった。もう一度、VTRで見たい。あ

りがとう。

連谷小学校の児童、職員のみなさん。この発表を聞いて、四谷の千枚田の後継者は心配ないと安心して帰路につきました。

犬塚 雅敏（静岡県・正会員個人）

いスペースにはうぱり。とても話し合いは不可能。話し合ったためには、お互いの顔が見える様に（方形）椅子の並べ方を考える。

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

C..「心のオアシス（百姓の集い）」

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し合いは不可能。話し合ったためには、お互いの顔が見える様に（方形）椅子の並べ方を考える。

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の研究発表、昔の米づくりなど、準備には、多くの時間と労力があり、地元総動員での歓迎には、心を打たれました。本当にありがとうございました。

2. 交流会立食パーティ式で少し疲れました。

→私の望んでいたテーマでしたが、内容にズレがあった。四谷千枚田で、米づくりに励んでいる人を主役にしてほしかった（例えば、保存会、田踊り、手筒花火、打ち上げ花火も庄

しだす）

→ディレーナーは、司会と助言で忙

いスペースにはうぱり。とても話し

合いは不可能。話し合ったためには、

心があふれ、おいしかった。小・中

学生の

事務局ニュース

事務局、佐賀県唐津市からのお知らせコーナーです

まずは、サミット開催地の件については、開催地選定の小委員会設置を事務局等で検討すること、また、開催地に負担をかけないよう事業費を見直し、大会様式を変更することが承認されました。

9月2日～3日に愛知県鳳来町で開催された第11回全国棚田（千枚田）サミットは、全国の会員の皆さまをはじめ、来賓、一般参加者、行政関係者の多くが支援を

いただき、盛会に終えることができました。厚く御礼を申し上げます。また、準備いただいた鳳来町長以下関係者の皆さん、鳳来町の住民の皆さん、本当にありがとうございました。

今回のサミットは、同時期開会中の国際博覧会との地域連携事業として、棚田と自然（森、水）の関わり合いや棚田保全へ取り組む「心」などをテーマとしたもので、印象深いサミットであったと感じています。基調講演で木村尚一郎先生が話された日本人の心、文化、そして棚田の持つ可能性は、棚田保存活動にいそしむ私たちへの大きな激励になつたと思います。

さて、サミット開催に先立ち、2日前9時から理事会と総会が開かれました。かねてより懸案であつた第13回以降サミット開催地未定の件、会員減少の件についてもご協議いただきました。

小委員会は、現在、設置に向けて協議を行つており、設置できましたら、サミットの開催を各地に呼びかけていきたいと考えています。

また、サミットの大会様式については、今まで開催地で内容を企画し、幹事会、理事会で協議をして開催しておりますので、経費を削減しながらも実のある大会となるよう、会員の皆さん方からもよい企画案がございましたら、ご連絡いただけますと幸いです。

次に、会員減少の件ですが、第8回鴨川市サミット時から、サミット開催案内書に入会案内書を同封し、全国の中山間地域等直接払制度実施市町村へダイレクトメールにて郵送しておりました。本年度はこれに加えて、棚田百選に選定されている市町村へ、協議会の活動実績を踏まえて入会を検討していただけるよう、ダイレクトメールを郵送することにしています。

総会の席上でも、会員加入促進について多数のご意見をいただきました。事務局としましても、努力して参りますので、皆さまのご支援をよろしくお願ひいたします。

棚田で地域振興①

「第3回土谷棚田火祭り」を開催

～空き缶でまらおこし～

長崎県福島町で5月7日(土)、

じめ、助役、収入役ほかほんどの職員がボランティアとして参加し、駐車場やシャトルバスの交通整理を

この祭りは、同町土谷免の区長永田恵さん（土谷棚田保存会会長）らが中心となり、「金を使わない、まちおこし運動」として、日本棚田百選

に行うなど、地元の熱意とアイデアを後押しする、住民手作りの祭りとなつた。

に認定されている土谷棚田での火祭りを企画・実施しており、今年も開催された。

第3回となる今回は、平成16年度に「農業農村整備事業広報大賞・優秀賞」を受賞した第2回目と同様、土谷地域を中心に火祭りを開催し、福島町役場、観光協会にも協賛してもら、地元消防団や松浦警察署の協力も仰ぎ、道路の交通規制や、シヤトルバス（大型2台、マイクロ2台）による観光客のピストン輸送も手慣れ、協賛の町役場からも、志水町長をは

祭り当日は、棚田の展望所を中心にお全国各地から詰めかけた写真爱好者が少しでも良い写真を撮ろうと早くから自慢のカメラを持って待ちかまえ、中には大型連休からの泊まり込み組もあり、2000人以上の見物客が集まるという大盛況となつた。

同時に、会場内で行われた地元住民による臨時直売所では、土谷棚田米を使ったおにぎりや地元の農作物、福島町特産のくるまえびを使った加工品など販売され、次々と売り切れとなつていた。

前日の雨も上がり絶好の火祭り日和となつた夕方7時、約7ha100枚の水田に、カウントダウンに統いて空き缶を利用した約2000本の松明に灯火が次々と点火されると、田植えを終えた棚田の水面に幻想的に炎が浮かびあがり、詰めかけた人々のこころを酔わせていた。翌日はマスコミ各社がこの火祭りを取り上げた。

編集後記

今年のサミット、とても地元のみなさんのアイデアがすごかったようですね。行けなかったのが、ものすごく残念です。関係者の方々、ほんとうにお疲れさまでした。来年はサミットも12回目。宮崎県日南市の開催。ぜひ、みんなで参加して、南国・宮崎で熱く語り合いたいものです。しかし、宮崎は、今年の台風の災害もすごかつたとのこと。中山間地域は、災害とも聞っています。応援や支援の手立て、考えていきたいものです。

（追伸：私事ですが、無事男児を出産しました。）

（石井里津子）

会員募集中

新しく会員になった
みなさま

個人正会員 安井一臣（東京都）

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田（千枚田）連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

佐賀県唐津市相知支所産業課

〒849-3201 佐賀県唐津市相知町相知2055-1
TEL:0955-62-2368 FAX:0955-62-2573
協議会HP:<http://www.yukidarama.or.jp/tanada/>